

2010. 4. 25 聖別会

# IMMANUEL

インマヌエル  
中目黒キリスト教会  
聖別会マンスリー



2010年

<ジョン・オズワルト著 『聖』を生きる人々>

## ④「旧約聖書に見る、信仰者への神の期待」

テキスト:「あなたはわたしの前を歩み、完全であれ。」(創世記 17:1)

信仰者に対して神が期待しておられる生涯は、次の二つの鍵語に籠められている。

### A. 「完全」(トムム)の思想

1. トムムと言うことば:「欠けの無い完結」、「中途半端ではない行動と思想」
2. 形容詞のタミムの意味
  - ・犠牲の動物では「傷や欠けの無い」(出 12:5)
  - ・神に関しては「全ての点で完全な」(Ⅱサム 22:31)
  - ・人に関しては、「完全な」という使い方と、「誠実な」、「正しい」、「汚れなき」、「健全な」、「正直な」、などと訳されている
3. 神の完全と人の完全  
人間が潔白な生き方をすることは可能である、と聖書ははっきりと語っている。それは、神の完全がそのことを可能にするからで、それは神の期待でもある。
4. 全き歩みをした人物
  - ・ノア(創世記 6:9)
  - ・アブラハム(創世記 17:1)
  - ・ヨブ(ヨブ 1:1、8 ; 2:3)

- ・ダビデ(Ⅱサム 22:31、Ⅰ列王 9:4)

## B. 完結(シュルム)の思想

1. シュルムということば:「全ての部分が揃っている完結」「満足のいく状態」「平和」
2. 形容詞のシャレムの意味:「一貫していて、二心のない」
  - ・例①:ダビデを王としようという一つの目標で戦士達の心が纏まっていた(Ⅰ歴代 12:38)
  - ・例②:ダビデは、ソロモンが徹底した忠実さをもって神に仕えることを期待した(Ⅰ歴代 28:9、29:19)
3. 「全き心」の現われ:神の御心を示す契約規定に対して、心から従うこと
  - ・「悪を離れ、公正を行うこと」(イザヤ 1:16-17)
  - ・ソロモンは、他の神々に心が向いたので「完全」ではなかった(Ⅰ列王 11:4)
  - ・アサ王は、無知の故にその行いは完全ではなかったが、全き心で仕えた(Ⅰ列王 15:14)
  - ・アマツヤ王は、神のために良い事を沢山したが、その心は主に全きものでなかった(Ⅱ歴代 25:2)

纏めていうと、全き心をもって主に仕え通した人物は多くはなかったが、それは完全な生き方が不可能だと言っているわけではない。人間の墮落は確かだが、完全な心もっての歩みは可能であり、主から期待されている。

**“Holiness unto the Lord” is our watchword and song;  
“Holiness unto the Lord” as we’ re marching along.  
Sing it, shout it, loud and long;  
“Holiness unto the Lord” now and forever.**